

第1回ポスト2020特別作業部会 ユース活動報告



生物多様性わかものネットワーク
島田ゆり子・矢動丸琴子

生物多様性わかものネットワーク

2019.09.20(金)発表資料 無断転用・転載禁止

本日の構成

■ 島田からの報告

- わかものネットによる政策提言関連の活動紹介
- アクション、ツールキット発表会への参加
- OEWGに参加した感想

■ 矢動丸からの報告

- 世界ユース(以下、GYBN)の1stOEWGでの活動紹介
- OEWGに参加した感想

島田ゆり子

明治大学法学部 3 年在籍。環境法ゼミを専攻。
生物多様性わかものネットワークへは2017年7月に加入、
昨年10月より第3次運営の副代表・事務局長。
出前講演チームのリーダー。



生物多様性わかものネットワークとは？

生物多様性わかものネットワーク(わかものネット)は

生物多様性やその問題に関して活動や研究を行う

学生と若手社会人のネットワーク団体

【About our data】

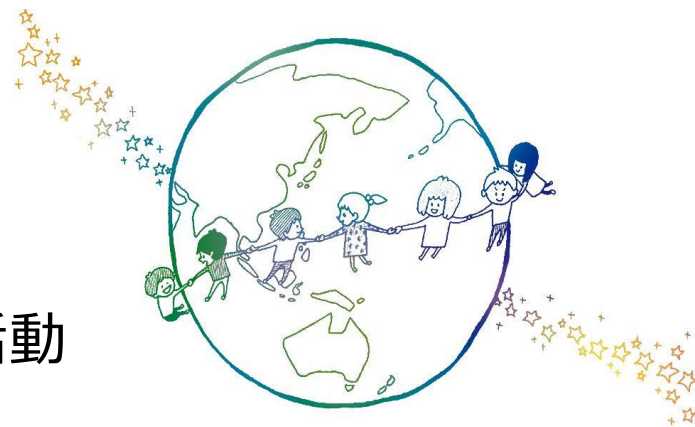
活動している会員数：50名ほど

活動体制：

普段は6つのプロジェクトチームごとに活動
3カ月に一回、全体で定例会を行う

学生メンバー構成：

東京大学、千葉大学、筑波大学、東京農工大学、中央大学、明治大学、東京都市大学、酪農大学、名城大学、南山大学、信州大学、九州大学 など



生物多様性わかものネットワークの活動

●国内での活動

現地に行くことができる代表者を決定



1st-OEWGの議題についてのインプット



団体内での勉強会・意見交換会



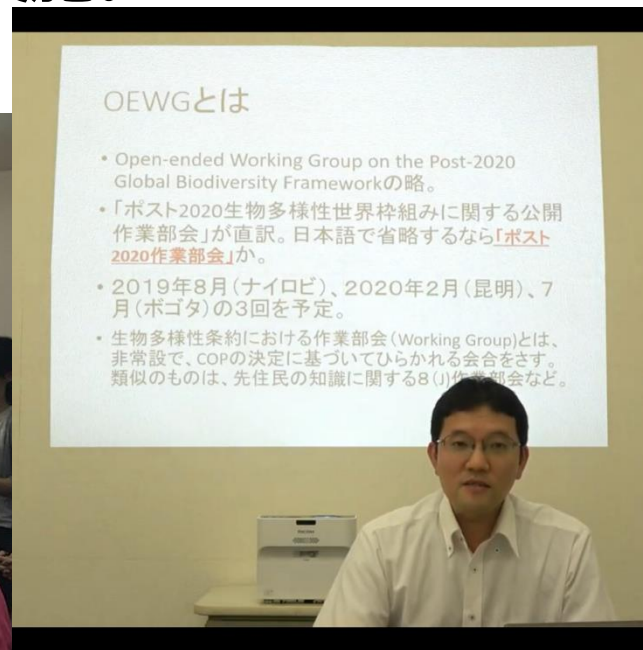
現地へ！！



生物多様性わかものネットワークの活動

● 団体内での勉強会・意見交換会

1st-OEWGとは何かや、現在のポスト2020の議論について、JYBN内でも意見交換を兼ねた勉強会を実施。



動画を用いて
情報を共有

←勉強会の様子

生物多様性わかものネットワークの活動

● 1st-OEWGでの活動

本会議への参加



サイドイベントやアクションへの参加



ネットワークづくり、意見交換



サイドイベントやアクションへの参加

●ポスト2020ユース参画のためのツールキットの報告会



ツールキット

北欧政府・北欧のユース・Global Youth Biodiversity Network(世界生物多様性ユースネットワーク)が

ツールキットを作成

ユースが

- ・生物多様性やポスト2020年目標の情報
- ・アクションのヒント

を得ることができ、

ユースの活動の支えになることを目指す

サイドイベントやアクションへの参加

●ポスト2020ユース参画のためのツールキットの報告会

ツールキットの主な内容



Figure 3. Examples of the global decline in nature, emphasising declines in biodiversity that have been and continue to be caused by direct and indirect drivers of change. The direct drivers (land/sea use change; direct exploitation of organisms; climate change; pollution and invasive alien species) arise from an array of underlying societal causes (Source: IPBES, 2019)

Session 1
Questions
The loss of biodiversity –
What is at stake?

ユースの行動について考える
ことができる問い

- Don't know / Do not wish to answer
- Balance between protection of biodiversity and ecosystems
- Economic growth

Highlight the statements that, in your opinion, are the most important reasons for stopping the decline in biodiversity

- I think biodiversity is beautiful
- I think biodiversity has a right to exist
- We need biodiversity for food
- I think biodiversity is important for climate change mitigation and adaptation

Why?

How should the responsibility for biodiversity be shared between rich countries and economically-rich countries?

2019.09.20(金)発表資料 無断転用・転載禁止

ユースは生物多様性の問題について新しい知識に基づいた
意見を持ち、行動につなげることができるようになる

サイドイベントやアクションへの参加

● NGOによるアクションへの参加

バナーアクション



バナー&コールアクション



サイドイベントやアクションへの参加

・ NGOによるアクション ～ バナーアクション ～

メッセージを書いた紙を持ち、通りかかる人に見えるよう並ぶ



メッセージ
「あなたたちの決定が私たちの未来」、「将来世代に向けた責任ある行動を」
など

サイドイベントやアクションへの参加

・ NGOによるアクション ～ バナー&コールアクション ～

2つの役に分かれて各々のコールで訴えを行い、対立を表す。

コール：「欲しいものはジェンダー正義！」
「法的拘束力あるコミットメントを！」

「自然と人」の役

コール：「欲しいものはお金！」
「利益がほしい！」

「企業」の役

「母なる地球」の役

あなたは、
誰の声を聞きますか？

「ポスト2020枠組みへのユース参画」
⇒様々な国から支持されている



ポスト2020枠組みにユースが参画する上で、

- ユースの立場だからこそできること、強み
- ポスト2020枠組みの実施への、ユースの強みを生かした参加

についてより考えていくべきではないか。

感想—島田— 本会議への参加

● 実施の手段や、横断的アプローチ

① 他の環境協定との協働

- ・ SDGsや気候変動枠組み条約

② 色々な利害関係者の参加・協働

- ・ ユース、女性、先住民地域共同体・世代間公平
- ・ ビジネスの分野 の参加や協働



多様な分野が

どのように関わり相乗効果を生み出していくのか

感想—島田— 日本ユースとしてできること

- 実施の手段や、横断的アプローチに対して

ユースの強みの一つ：
枠組みにとらわれず、多様な分野の人とつながりやすい。



- ・多様な分野が生物多様性の問題に取り組む事例を広める
- ・他の条約や協定に取り組むユースとの連携を深める
- ・ビジネスなど他分野とユースの協働を測る

ポスト2020枠組みの実施プロセスへの
提案や、貢献ができる

自己紹介

矢動丸 琴子 (やどうまる ことこ)

- 千葉大学大学院園芸学研究科博士後期課程在籍
(専門は環境健康学・人間植物関係学・環境教育学)
- 現在は休学し、IUCN-J事務局アシスタントとして従事。
- わかものネットには2018年4月に加入。
- ポスト2020に向けたユースチームを組織し、実行委員長を務める。
- SBSTTA22/SBI2、COP14に参加し、今回は3度目の国際会議参加。
- 世界ユース主催のアジア地域能力養成WSへの参加経験あり
- 中国ユースを日本に招聘し開催した日中ユースWSの統括責任者を務めた



GYBN(Global Youth Biodiversity Network)

= 生物多様性喪失を防ぐことを目的とする

世界中のわかもの(ユース)のネットワーク



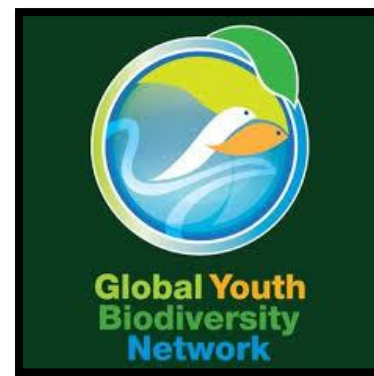
今回は日本ユースの他に
ドイツ・ブラジル・メキシコ・ケニア
マダガスカル・南アフリカ・フィリピン
のユースが会議に参加



More information

「GYBN」で検索！

<https://www.gybn.org/>



OEWGでのGYBNの活動

- **ポジションペーパーの作成と意見表明（政策提言）**
- **「世代間公平（Intergenerational equity:以下、INTEQ）」の推進**
- **交渉のトラッキング**
- **会議プロセスへのユース動員支援**



OEWGでのGYBNの活動

●ポジションペーパーの作成と意見表明(政策提言)

★ “Youth”の席が他セクター同様に設けられており発言可能

★ 交渉内容を注視し、ユースの視点からの提言を行う

< GYBNのポジペ作成の手順 >

- ① 中心メンバーが提言のドラフト文書を作成
- ② 参加メンバー内でドラフト書面をSNSで共有
- ③ 交渉内容もふまえ最終版のポジションペーパーを作成(Googleドキュメントで共同編集)
- ④ 議長から発言が許可されると
代表者がポジションペーパーを読み上げる



● ポジションペーパーの作成と意見表明(政策提言) —提言内容の一部を紹介(クラスター2：「条件整備と実施」について)

★ 2020枠組に以下の「条件整備」が含まれるべきだと強く思っている

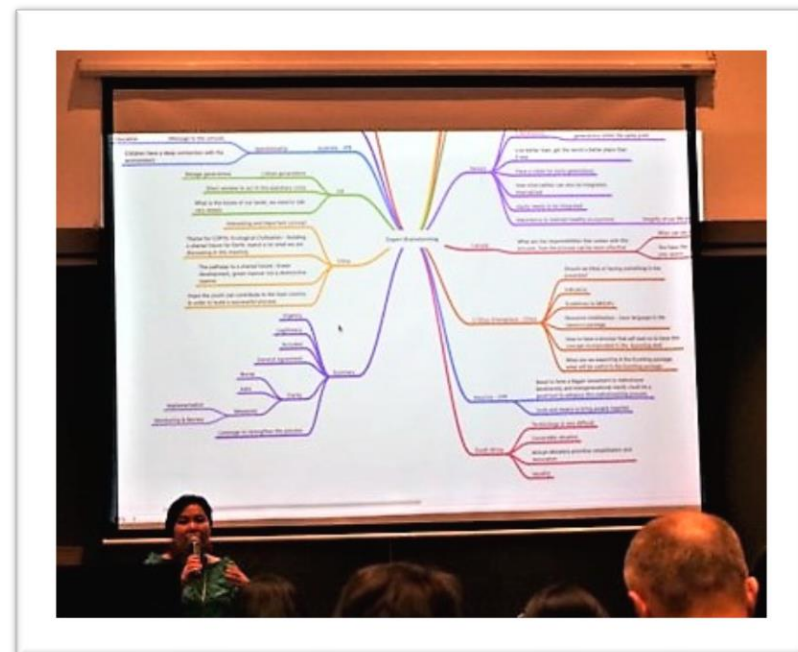
- ① 効果的なガバナンス、法律と制度
- ② 実施の段階すべてでの、IPLC、女性、ユースの完全で効果的な参加
- ③ 多様な知識体系からの知識や技術の創出、アクセスと管理が公平公正な方法で行われる
- ④ 生物多様性リテラシーと教育



OEWGでのGYBNの活動

● 「世代間公平(以下、INTEQ)」の推進

- ★ INTEQの概念をポスト2020枠組に組み込むように推進
- ★ 多世代を招いた専門家ミーティングとイベントの開催
- ★ 提言内容への組み込み、締約国へのロビーイング



OEWGでのGYBNの活動

● 会議プロセスへのユース動員支援

★ SNSアプリでの情報交換・議論の内容のリアルタイム共有

- ・ 締約国やオブザーバーの発言内容
- ・ 作成したポジションペーパーの共有
- ・ ユース向け/ユース関連のイベント情報の案内
- ・ 不明点があった際の問い合わせ



SNSアプリ
Whatsapp

★ メンバーへのフォロー

- ・ 国際会議経験者から初参加ユースへのレクチャー(COP14時にも実施)
- ・ 会議参加後のオンライン報告会(web上で)の実施



OEWGでのGYBNの活動

●交渉のトラッキング(提言内容のメモ取り)

- ★ 本会議に出席し提言内容をメモ → 各国のポジションを確認
- ★ ユースへの肯定的・否定的意見に対して、発言時に活かす
- ★ 複数のユースが協力して実施(Google ドキュメントで共同編集)

●NGOグループの活動への参加

- ★ 協働してポジションペーパー作成をすることも
- ★ ミーティングへの参加
- ★ アクションへの参加



OEWGに参加した感想 — 交渉への参加



- SBSTTAやCOP等と異なり、明確な合意が見られなかった交渉という印象
→ 新たな目標に対する締約国やオブザーバーの期待。慎重さが伺える
- 各国の発言から考えると、大枠として最終的に目指したい方向性は同じ。
ただし、自国の現状や背景により「こだわる部分」は異なる。(当たり前)
→ 今回の交渉内容もふまえた上での、ユースの立場での「こだわる部分」
整理。多くの日本ユースを巻き込んで、これからの行動計画の現実化と
主張の準備をしたい

OEWGに参加した感想 – NGOグループ等への参加



- 「ユース」の参画だけではない、多様なセクターの参加を進める傾向
世代間やジェンダーの公平に加え、人権なども含んだ権利問題の主張も
増えてきた印象をもった

→ ポスト2020目標は愛知目標よりも、さらに幅広い分野(自然環境分野以外)も巻き込んだ目標になりそうという感想。場合によっては「生物多様性保全の観点から作られた第2のSDGs」的な役割も担える可能性があるのでは？(私見)

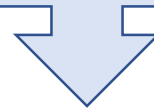
OEWGに参加した感想 — ネットワーク(人脈)形成

ユース兼UN Womenグループの友人(タンザニア人)ができた！

→ 帰国後も定期的に連絡を取り合う仲に。

★自分とは異なる立場・得意分野をもつ人との貴重な交流の機会

→ 国際会議の場は新たな発想・情報交換・協働の機会を得られるチャンス



◎ 将来的に何か直接的な協働の可能性を創出できるのではないか

たとえば・・・

- ・ アフリカユースの生物多様性に関する考えや情報交換の促進の可能性
- ・ 「UN Women(女性グループ)」の主張や取り組みの把握促進等、他グループの情報へのアクセス



ユースの情報がもっと欲しい方へ！

Contact and Follow us!

生物多様性あかものネットワーク

Mail: biodiversity.youth.network@gmail.com

HP: <http://biodiversity-youth-network.jimdo.com/>

Twitter: @wakamononet

FB: <https://www.facebook.com/biodiversity.youth.network/>

